

危険な県道を歩いて調査 結果を示し土木事務所に要請

船橋市北部の住宅密集地を通っている県道（千葉鎌ヶ谷松戸線）は、道幅が狭くて歩道もなく、歩行者は側溝の蓋の上を歩いています。雨のときには傘を差しながらすれ違うこともできません。車椅子やベビーカーも通るのがやっとで、常に危険と隣り合わせです。

この地域で活動している日本共産党八木が谷支部と二和支部は、実際に県道を歩いて、段差や穴、じゃまな電柱などの調査を毎年行い、結果を地図に記載して県葛南土木事務所に実情を示し、改善を求めてきました。

今年は2月9日に事務所に要請しました。

参加者は、「年を重ねて、歩いているときに、ふらつくこともある。もっと歩きやすくしてほしい」「ただでさえ狭いところに電柱が立っている。移動させれば少しは歩く場所が広がる」など、日頃の思いを伝えました。



要請する参加者と丸山慎一（前県議）
（左）神子と市議（その右）
11月29日・葛南土木事務所

物価が上がっても年金は上げない 安倍・菅・岸田政権11年間の
実質削減の推移



（注）2012年から毎年度の物価変動率と公的年金額改定率を単純に累積

2022年 世帯主の年齢階級別物価上昇率（対前年比）

	総合 （全費目平均）	食料費	光熱・水道費
全年齢平均	2.5%	4.5%	14.8%
60歳～69歳	2.7%	4.5%	14.9%
65歳以上	2.9%	4.6%	15.0%
70歳以上	3.0%	4.7%	15.0%

（注）総務省「消費者物価指数～世帯主の年齢階級別10大費目指数」統計表から作成

は2022年の物価上昇率は、全費目の平均で前年比2.5%増。費目別では「食料費」が

物価高なのに年金上げず実質削減
ところが岸田政権は、物価が上がっても年金を上げない「マクロ経済スライド」を3年ぶりに発動して、年金を受け取り始める67歳以下の人では2.2%増におさえ、すでに受け取っている68歳以

ところ、岸田政権は4月、物価の上昇より低い改定で実質削減が繰り返され、生活は苦しくなる一方、そこに追い打ちをかけたのが物価高です。総務省の消費者物価調査で

物価高なのに年金上げず実質削減
4・5%増、「光熱・水道費」が14・8%増で、この二つが大きく跳ね上がりました。高齢者世帯の平均所得はその他世帯の約5割しかないのに、食料費や光熱・水道費の家計に占める割合が高く、高齢者世帯では全年齢平均を上回っています（上の表参照）。

上では1・9%増におさえようとしているため、物価高に追いつきません。これまでの11年間では、67歳以下は実質7・0%、68歳以上は7・3%も減らされることになりました（上のグラフ参照）。
いまの物価高騰は異常事態であり、実態に見合った年金額に引き上げることこそ、政府の責任です。

3人目以降の学校給食無料化をさらに進めて 全員を対象にした完全無料の給食実現を

学校給食は、人件費や設備費は税金でまかなわれて

いますが、食材費は保護者負担となっています。

しかし、対象になるのは学校に通っている子どもたちのわずか1割程度で、一日も早く全員を対象にした無料化を実施する必要があります。

文部科学省が調査した子どもの学習費は、学校にかかるものだけで小学生が年間約10万円、中学生が約17万円です（上のグラフ参照）。内訳は、給食費が小学校で約37%、中学校で約22%を占めています。

市川市では、中学校は今年1月から全員が無料となりました。小学校も4月から無料になります。そもそも憲法では、「義務教育はこれを無償とする」と書かれており、教育の一環として実施されている学校給食は当然無料であるべきです。

市川市は全員を対象にした無料化へ

公立中学校 170,019円
公立小学校 104,984円
学校給食費 37,670※
通学関係費（制服・通学費含む） 39,516
図書・学用品・実習材料費等 32,368
修学旅行・遠足・見学費 15,824
教科外活動費（クラブ活動等） 24,172
学校納付金（学級費・PTA会費）等 14,538
その他（入学金等を含む） 5,931
2,294
8,113

公立中学校 170,019円
公立小学校 104,984円
学校給食費 37,670※
通学関係費（制服・通学費含む） 39,516
図書・学用品・実習材料費等 32,368
修学旅行・遠足・見学費 15,824
教科外活動費（クラブ活動等） 24,172
学校納付金（学級費・PTA会費）等 14,538
その他（入学金等を含む） 5,931
2,294
8,113



日本共産党は3月4日、目前に迫った県議・市議選挙に向けて街頭演説を津田沼駅で行いました。志位和夫委員長が地方政治の状況や平和をめぐる国政の現状について詳しく話しました。県議選挙では丸山慎一前県議が、大規模開発優先、医療教育後回しの県政を転換しようと呼びかけ。岩井友子・金沢和子・松崎さち・坂井ようすけ・神子そよ子・佐川長・かなみつ理恵各市議予定候補もそれぞれ決意を述べました。